R3.3.19

# 令和２年度　第３学期終業式　式辞

令和 2 年度も今日で終了です。皆さんにとっては、どんな１年だったでしょうか？新型コロナ感染症の影響で様々な制限がありましたが、学校としては、以下のとおり、すばらしい成果を残した１年だったと考えています。

(1) ２年生は１年生の同じ時期と比べて成績優秀者が増加。

(2) １年生は、高校生活にも慣れ学習習慣がついて行くにつれ成績が大きく伸びた生徒が目立った。

(3)卒業生の進路実績は大変良かった。

(4)120 周年の記念行事も含めて学校行事すべて内容が良かった。　記憶に新しいところでは先日の卒業式は、在校生のサプライズ演出があり心のこもった式になった。

(5)コロナ禍にあっても地域連携活動等、校外活動は可能な範囲で積極的に活躍した。
アキンドの活動、またサマーフェスタ２０２０は来場者が大幅増だった。

(6)部活動や資格取得などよく頑張った。
※　年間の表彰者個人でのべ１０７名、団体合わせると 150 以上であった。

皆さんは、学校のため、地域のため、あるいは、自分自身のため、今お話しした成果の何かしらに関わってくれたのではないでしょうか。皆さんの頑張りにより、そして、皆さんが頑張れるよう絶えず応援してくださっている先生方のおかげにより、地域や中学校の評価がますます高まっていると感じています。先生方も含めてここにいる皆さんに感謝したいと思います。

さて本日は「セルフ・リーダーシップ理論」ついて少しお話したい。自分の発した言葉、書き留めた決意から力を得て、それを自分自身の成長につなげようという考え方です。このことを巧みに使い成果を上げているアスリートの方がたくさんいます。代表的な選手では皆さんも知っていると思います、冬のオリンピックで、２連覇を飾ったフィギュアスケートの羽生結弦選手もその一人ではないでしょうか。彼は 10 代の頃からメディアのインタビューを受けて、整った切れのいい受け答えをしていました。その発した言葉には、自分自身を鼓舞する言葉を常に発していたなと感じます。１６歳の時に、「(自分は) 王者になる。まずそう口に出して、自分の言葉にがーっと追いつけばいい。」と言っていました。そしてそのための研究と努力を惜しまずに、成長の過程を随処に見せてくれました。自分の言葉を力に変え、夢の実現に向かっているように感じました。

羽生選手は、もちろん一人でこれをやり遂げたのではありません。コーチを含めた周りの人たちは、羽生選手の有言実行の姿に自分を重ね、自分自身の目標としていたのではないかと思います。結果として、羽生選手の理解者となり、最大の支援者となっていたのではない

でしょうか。

自分自身を鼓舞するために言葉を使う。なかなか難しいことかもしれませんが、簡単に言うと、常に考えること、常に意識することを積み重ねることで、自分の思い描いていることをできるようになると言われています。これは授業でも、部活動でも、あらゆる日常生活の中で実践することができます。

「一年の計は元旦にあり」といわれますが、私達の元旦は 4 月 1 日と考えともいいでしょう。来年度、自分自身のあるべき姿を口に出し、そして明確に思い描き、有言実行を果たせる若者に、夢を実現できる若者に近づいていきましょう。

今日は、「言葉の力」というテーマでお話をしました。

令和 3 年 3 月 19 日
愛媛県立八幡浜高等学校
校長　　菊地　英明